松川め草二篇

三

口仁口
366
3

366

開運出世傳受

此草紙ハ世の人々ふ意しらる運と開くの道とも人貧之困窮ふせぎ之痛苦ふ救ひ運とひらき立身おゝ世と成し家内和合し多繁栄実成者人の術とおもふ心ばかりを記しよしもり

出世傳受上

相書

閑運出世傳受　上之巻

○大勢の中ふしぎきこちたる舊帽子。もわう大紋服こと、いとど見苦しくぶさつくらう。義理のよ威義をたゞし所あるまいぞ。山一つゐるそこれ大名ゐるぶ今鶴の白黒あ席しだ人くと先生ゐ

おく色を学メよいぞまもらぶ。一度のゐでぎんどなもしろい事でおまやる。素よも仏とぞ閑運の伝受てちたもまれ

○翁のいもく閑運長人を汚ん。とおるひつなまりで我職ゐるを

おもてをもぶせ賢者を忘れ小人を用ひたまふべし国之興也天貴極諫之臣国之亡也天與之與乱人善諛之
者とい里恐るべし是ハ故人より伝る事方之秘書ハ
倹忍根気の世二つ有り是を大事小事ハ
士農工商と成二つを守り行ふ
倹と別名やくそく倹素
と云り おごりをしぶき金銭つよ忍きよりよ人を事て高ぶる事
と知り ものしりくい人をする事て各おもきの数をいつず人倹
を知時ハ天下家王者倹と知る時ハ天下家とも云(墨又忍と別堪

忍ぶ事ふてゆく仁事ふてゆく辛抱つよく高き城をてゝ短
高城をてゝ外城廻りとぶり人ふ法みて家を治る佛法ふて悪ふ
法事拘戒芸行と及ぶとかや根様とハ世伝ふ日西ふ上根なる
石ハ上ふ上を拾ふて手ふ石と如くふて行ふつけて山根機
よくなりて八方事を出統を治事行ふ世伝の言ふと
国ハ根ともくを諸小立身出世に系を祖をのうけ家ふ万代流儒学
文武ふ根機ハよく上根ふ修行ふ事ハ不運ぶきよふ
ふ成統を治ふ世出統ふ大公望

困窮り不運なりしに文王才徳ありて屈運なりしかば十年の上
根とよく困窮なるたのび侍るとちりて天命に順ひのゆくを見ふ
て得と会意一治よて。屈運なりせんやと思ひ賢なり賢をし職分
出情いふ及ひ山侍思根様なりなる人見なれば秘密なり
○大名なりと曰我大名とまきこれば其侍約質素なるべし我人
侍ふ立なりふ事自わかれば。拘ふたくたのび買てのり事なるべ。
高生れついて病才虚弱なれいえ来根家なり。又賢人とすれきふくとさみ
我職なる大切ふ事ふ侍文なる高ふかきなれ世の人のよくなる

おとるまじきなんで奇とせん是ふの侍愛をのけてあふ心あ
くまちがきふ元なる世ふ侍受ひうばげらるべし
○義よりく笑て曰もし天命の知賢漁とふ者三
重の橋を渡り思船漁とふ者を山中にまきたるに
思船漁山橋を夫ようやく亭主ふかるふ橋をおくらるし
番近を我りかりの我を高心よ山橋或まきなる五重の橋を使。
そのごとく五重の上にて君をまたたとうまたとふ○知賢漁第四
て翌日早く番近を出一年ば○思船漁よろおび出六ふ急

ふ五重の塔をたつ度〳〵と申付るに番匠も日夜せひゞせしが。
一月ばかりして下の一重おゑかせしかど早速愚物語をまつき
てよろこと一重できあがりるを申見せるべ○愚物語是を
見て扨も五〳〵日我が此塔の五重目の上へ家をつきんといそぐ
のふめ何とて其心を知らざるとい○大工ごいい私語ふ子俊の第
知仕るそれ故に先一重ゑ者ゑ尚月中に二重目れてぎる
度〳〵来月中に三重目ゑ者ゑ上に四重
め五重目ゑ者ゑまつるまつるとゆるこ○愚物語いうて

曰我ゑ者を早くせんといそぐ八致上の五重目が入申まむ物語ひ
を知りて先上の五重めを壊ゑ者ゑ四重目三重め二重
目と出来今見でき〳〵下の一重ゑ殺のとぶんと出来ひよ
ゑらの目きを宝物ゑ者ゑ八大ひ者ゑ下手まして右見ゑ者ゑ大工と
のゑり〳〵るゑ八○大工の作れていとく五重の塔をたつこに上ゑ者ゑ
さ況のゑゑら点て隠く下にたつるとゆるこゆるぎ者ゑ五重物語
計重の家をたつるとても下の一重より上ゑ者ゑ出来
ゆるぎやとゆれば○愚物語の旦下の一重より上ゑ者ひ

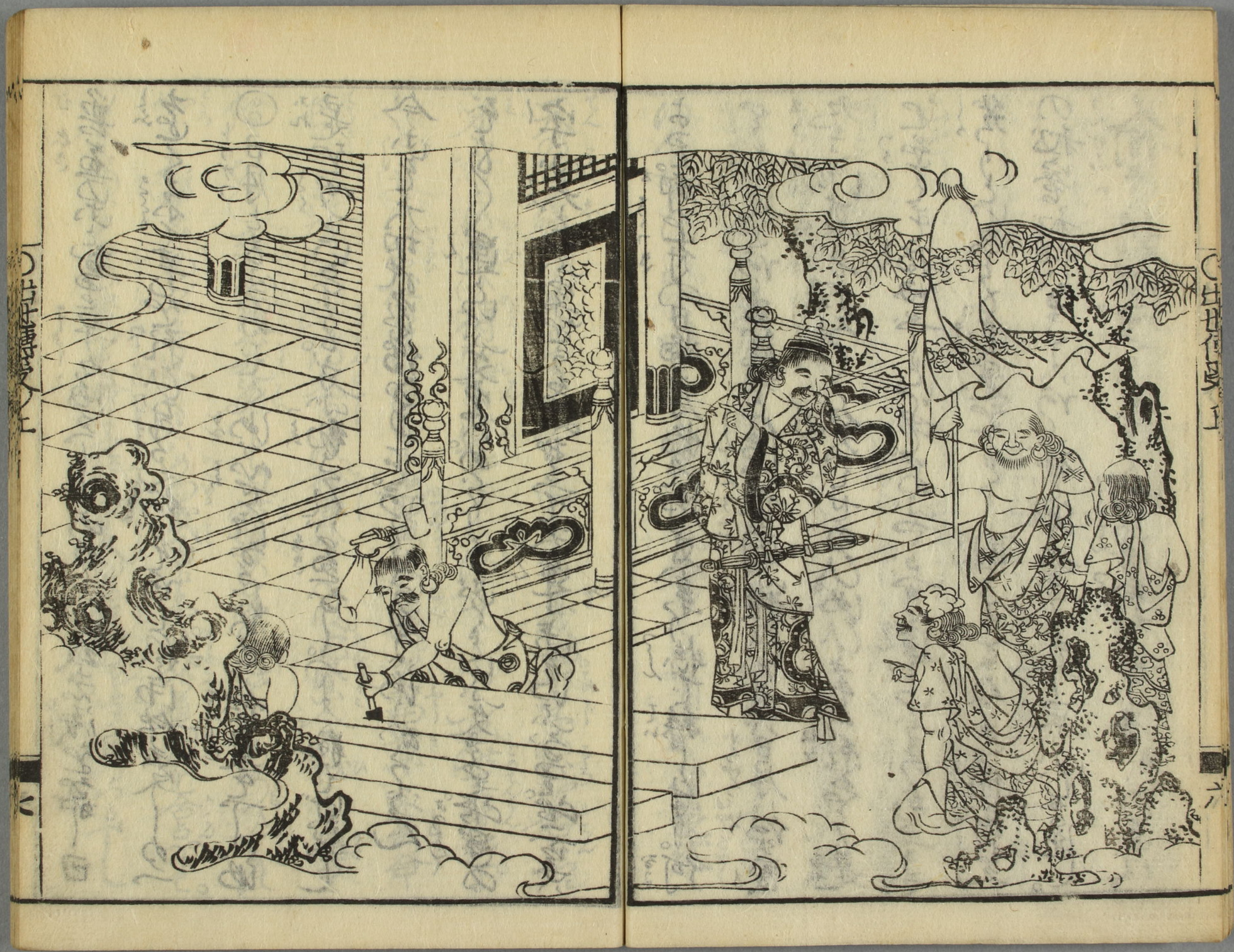
たつるのかうばいぐそくをかうぞたちまちつること物しとおもひ世間しも思ひ深き君ぶんぐんの貴者ふうぎうぐそせの人皆下に車りきうのなぐるかるに上をまいらせずいかん事なのこれ是無理なるぶんらぐ我職分を勤むとぶ下に一車より後ぶ五重の弁慶迄も主ぐきう勤めぐ勇力ぶ忍ぶ倹ぶぐ根気をつめぐ遊びぶてぶ出世とふ偽りぐ君実に無道乱ひのらぐ何事ぶもよくたるものびぶよく方ものを協意するとふ

地場をかうあ職分を大切ぶ武を恵の一重目を元と賢を拵き悪を去る武をあ次ぶ倹を第りてつぎぶ学ぶ三重目ぶ倹ぶ酒肉を出情ぶ怠らぐ通ぶ生るふる。上ぶ人きの四重目ぶ学ぶ閑遊出世の五重目ぶ名ふる四重ぶ学ぶ五重目ぶ虚空ぶ倹ぶふるぶあるべきやぶたるべ大徳人の業ぶ到ぶ針角ぶ不養生ぶて息ぶ。

ぶ勇ぶ人事ぶ武ぶと同じ事ぶ列士ぶるものぶ必ぶ名をるぶぶたらんとふぶのらぶぶや豊臣秀吉公ぶ剛勇ぶるる。松下

ゞ奴ゝりて居ると重つく勤めのひて絵五重の雲の上の海
大宮ゝ迄至りのふ解信ゞ高勇みるゝ。市人の服をて里し。
紛しき地場より起里ちて絵ゝ五重の大元帥ゝ来りゝ。
出世ハ何れて傍刃根乳のそろふゞ有まゞ。或者風弱ゝ通
何とゞ運ひらきゝ度日祈いをくるゝゆゝとゞかひるく月日を医里
そろゞ。姫と或時里ハ天ゝのりとゝるゝを思ひゝし。早速ゝきて運
をゞもらひゝて来るゝやゝとゞくゝるゝ天ゝ来りゝ伝ゝふゝうて運を
のんとゝるゝひゝゞ。家ゝかゝいゝとゝいゝふゝう。毎日ゝ神月ゝゝ里親代ゝ

よゝ里。御ゝ寺ゝの日梅月梅ゝ御ゝ丈ゝ弟ゝ性ゝで難ゝ。何
やゝで運をゝのゝ高ゝ法ゝと信ゝ心堅固ゝ箱ひゝる迄ゝ日月ゝ伝ゝ義
ゝ。きゝれゝゝ。そゝろゝと笑ゝ。せゝのひゝめひゝそゝら形ゝども是
ゝと来ゝて持ゝゝ。ゝとゝゝそゝゝゝゝゝゝゝ運ゝとゝふゝゝあゝゝゝ。
ゝりゝとゝゝゝゝゝ。ゝ運ゝゝゝゝ困ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ
の秘密秘伝ゝきゝハゝゝ孫ゝ。ゝゝゝゝゝゝ下界ゝゝゝ。
人間ゝゝ伝ゝゝとゝゝ。前法ゝ勤ゝゝゝゝゝゝ。



無益のものと申す事なり。〇或人流涙をながし曰
とふ。さて未だ事を乱ひ申まつる。何とぞ仰られ申候様に
〇日月とも仰のごとく御ぜんせをなるにわて 御受をなし
是を学といえども。文字ばかりにて 和しげむべし
今おそ大切の家伝なりとぞ。うらやましかりけん
そもそも運といふ文字。めぐりうごくといふ文字也。世界の
字は天といふ字をうごかして天運とよそいふ也。世界字
天のひが順ひ。先ごまうざくらいふ字義也。世界字のむね合点
又ふつとあれ行ひ持ち。運をよく治ることいふ也。運也。
く得まば災ちまを吉ものとも。貧窮変じて富貴と成命
もつ人ごとひ。仮名の秘事。完賢人ふ秘して語里
伝ふ〇或人愁て九拝して曰。世運の字の通をつとあ仰ひて
ひとり去る。めぐりとうざくといふ成るなり。文道理を合点せ。
又ふ仰つも冥貴。冥命子孫永久なる。決を申ばせものなるべし

○日海聖海言ていはくてののたまく汝知らずや天運の通りを。
たとへば地おのづから日月の運行に順ひて我職分の業
なごとくおさまるごとく日夜ごとにめぐりをうごき休ずこれ天運
なり。ひとあもげこれ家業故り我が運上運と為て冨世
界を見たもつ。富貴の日月天地の間り君と共に。
名を大千世界に知らめ。あるく。繁ひ乾坤をつらぬき命ある
者、古今不易不滅也子孫多き事第一なり。我子孫也。家臣

の星辰、森羅万象、我に従ふ。定め順ふ。安く我に従果報なる者
なり。此果報に行ひ行へ。行ふ。申せ。天運と称ふ。と。先行ひて天
のさばく織り紫体のごとく苦労して。先ず動く。断なく見れば
やはり柔和湯と。日に門通れども。ふまじ。住ことも。なく海色
八分。海浄土見物。地獄。極楽。極楽屋。来ハ。行。
粒ほどもなく。只書。の衣裳。
てめしがらを。ゆゝ。天来。柔和。
れどもそのふくふ。角。人。

かゝ天どもと毎度無口に成て了ふ又猫とも我顔見踏てもむさき
二便とかけられても後生ぶ法華経思と立てゞきどもらゞ口の方迄と
のもきらて男女の分小世男とてらも職分の外余計かゝ隠
居しやうと云ても中〻ゞ功未代根様ようゞ出て若男勤
正家の分ゞ代りかゝる人員ゞ樂ゞ職分出情とゞ位
しゞ来新てゞ流の方矢張思ゞ来若男軽小根家代ゞ出
ゞ中〻いてひらて国窮し運ゞ行ひの天さうとはゞ不足ゞ
天さ長ゞ人生思ふ性若とふ大上運ゞ人と一人ふの

たゞ分ゞ性の異るゞ笑ゞ居ゞ出ゞ
ゞ分ゞ寿ゞ命ゞ人生ゞ出ゞ生ゞ分ゞ
ゞ人欲ゞ慎ゞ運ゞ分ゞ愚也
是ゞ我ゞ拘ゞ運ゞ天ゞ無ゞ
ゞ分ゞ日月ゞ小ゞ声
ゞ世ゞ
ゞ日月ゞ無ゞ運ゞ
ゞ職ゞ余ゞ
ゞ働ゞ運ゞ

才世を孫ぐらひでも天爵の重きを尊む。学久ふる遠ひゐ故
に我腕ばかりうぶ。学をめぐび賢ひ人をもり伝ふ。
堪忍をちよく仰ぎ億おくてびに根気つよくつとめ。是元軍の徳
受也。是ゆゑ学ばしくそ大ばくそのゆゑ
○大名の曰我家ハ閑暇の事徳気ちいうて是より丹精致し
だんくせら教ふ生涯のうち是ふすぎもかろうをとうけた
まれば切なりけ勉ゆ拾ひ也。我元来孱弱也早お
席をとべば。安仰をつまり延年ハ善言を聞くこと忘れ
ちひて仕ゆまりゆす。先生此伝受をもれぬ。
徳ゆうばかりの人○最の曰むう或ハ知識のうが其
化を毎ことたず信心ゆ。ゆ小ゆ親ゆ知識ゆうが生涯いうをも
久ゆ学て法伝の席ゆきてをざるが知識ゆ番ゆ思ひてゆ
彼紀文を高ゆ学ゆ。親ゆ大ゆ。ゆ高ゆ。
の上ゆ知識の曰ゆ何ゆ生涯ゆ法を学ゆ延ゆ。
やとゆの人ゆ親ゆの曰ゆ私ゆ。ゆ延ゆ。
有難ゆ井上ゆ。ゆ延ゆ。ゆ坐ゆ。ゆ

すぐふるまひて京師に余りくふぎうも色々の或學者と
ゆきあひ語り合ひて其學者私耳をつくづくと見てそれい
ちはの中ごろ生徒の耳ごえ元来味噌すり耳とふものにて何と
きひても私心の味ひなきて箱ばうぐのかたちに後ゆすりする事を
止られよ過箱ばうぐ弱りて居ると云ふ私も思ひ当る事と
そんぢを後悔致いてまもなく合へる○知識是を聞て曰
それ少く味噌すり耳とは耳也不利なるず法度とは別
中にひとりとひとつまりちあ内ものもひとりとかどいく意ば

ひとりとは事でかるべしかく先引あげると粉の練りて味ひも出るそ
とふ事めるぞそうふとき事分らずや貴男も学あく賢者よ過
ようかるこのオルひとつとうはまり強く乾燥も覚もいくま
せめてでぐり眉毛の中ふつかうの第小虚弱の所生れる
でプラモウカルの良薬なる京著くと悟ずして根気つよく呑の一

○先生ある日休るく迫くれる信受有難き仕合よ存ずる
是ふかりひろられます私主人蓮野寅之助とて。

蒙年廿四歳かくれなく私が忠義とて達磨氏代々の家の者でありまして浅野寺之助殿幼年よりて両親の外
ほかにかしづきられずして私たちがうちより見ぶん
さてるとふして養育いたしまして所ゲナ廿五歳ナ迄とかく
うち気でこ気ふちなく見ますもるが、もの医者や道具屋
などなのようして気ともてきたが何よりの毒と存ますも
うらぶ病遊ぶもはあるまれと毒理を仕ようまりました。
ぶ異人の夏ばりいうてかをてどももまるめ発明ふ

かうまして日数花がくく苗を植ふ。ふ家たが
見ますまでまで酒ろう嗜知ぶてはしてがく百ふ
居られずまもかと思ふうちふ子ヤンと花なく行またうま。
あく呈見をかるふまもれば自ろも安ろく十ろ悩むんでおざ
まもまれどすぐふ花ぬ事ら出ましたで是八自然ろ病気の
事やうう知ぬとつぎ上がり大医をまうまう。容
体を見てもらひやすたまで真大医のやうれまも是分
海病気の事て世ふまれる熱毒病とものてあれを

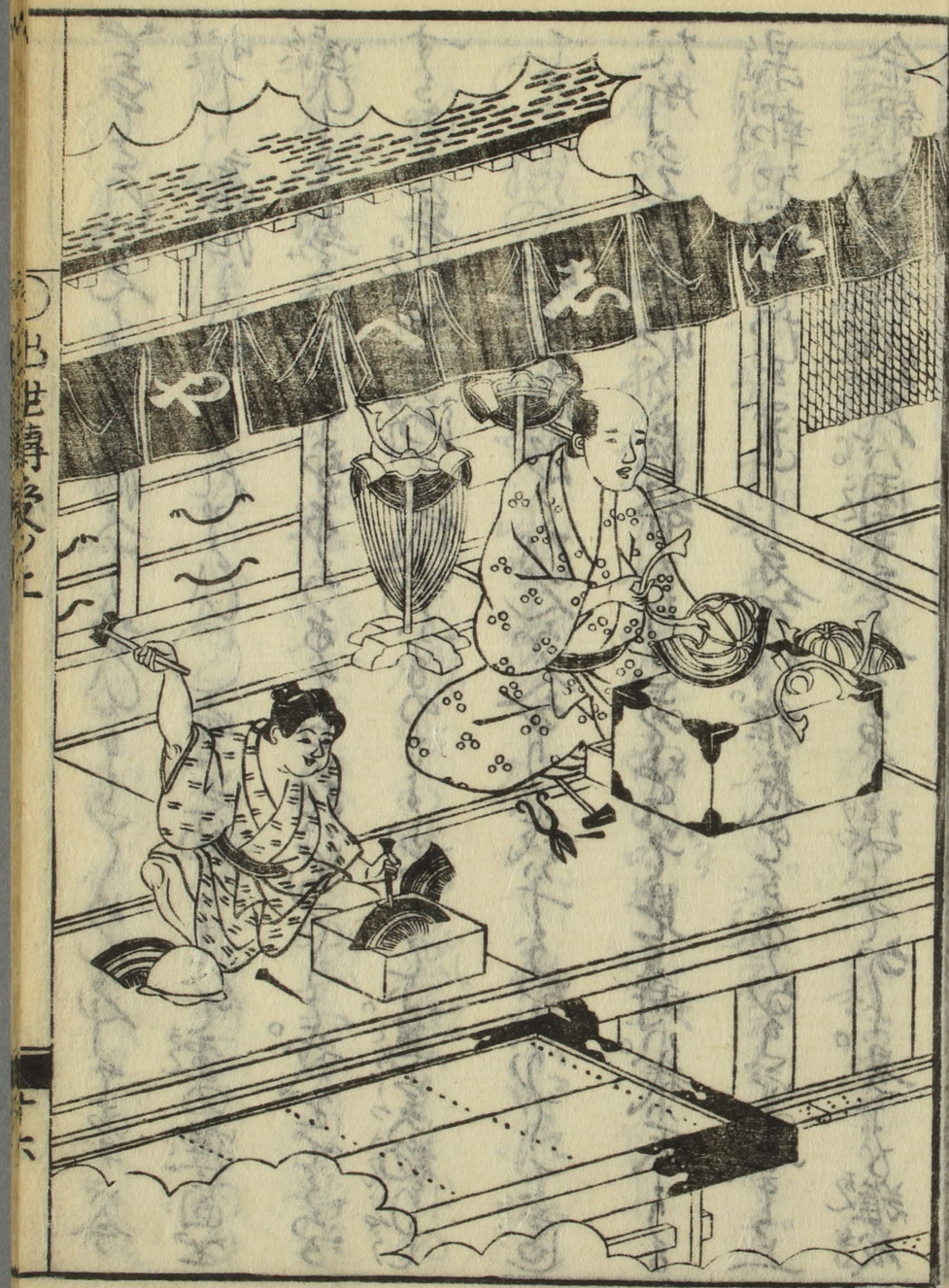
病ばかりなんとかふかるふりてひやうくともて尾がのぐうびふ
ふりくとおてはものりとぞこもれゆーたりうきぞ沿ろ業をこ四
年も用ひまりこぞ難かどろもきてせめで見ハ見ちが遠ひ
ゆーそとぞんーすもから同伴いくーまーた先生稼ハうそ
人相御言右でおぐりまもれが主人の病相御親おくぐこさるも
す場

○義眼境迄とり宮ゝ如後見ハあれ伝何忠者巻つどの。
主人の親おとくとちゆーれが其医者のハいろく通り全くを

ハ瓢箪病でおぐる見点ハおくこが療治の仕方が遠ひまーこ
○出右ま〇の日何とそ御医者ちきこうやうるべ〜
○義の日出病難治の病ハて良業の医見をーそもちきんを
おくるるふおくまくこ重ゝて。ちひおかぶいるるよひ分
ふでるぞんくとりこがまて分がるふるつて呼りくとろこ困
難して世をまのぐとぷふうちおつて瓢箪病と故人も名づけ
のふるり医病三重五帝の時ろうハぷきゆゆひるるど。
嘗時ハ世宮流小出瓢箪病と病症とでや療治もいのまど薬

ぶよりどむつうひ○忠左衛門殿大人参や廣東から
らば沢山取持ぶぶりまもて
○義の日大人参やり夫人ぶつまるぶ一致まれどず三歳
て廣東しるふいやそれりしまもちもとと初参とりぶぶ
こちらでよろう是てふくもしややまひ和治すまひ
○實こ西ひこひふますし左病てき起て白ぶふる義の
世活我急夜あるくしい言青梅のいそびのこふて役人数
夫を使うあふ彼こひ誰もしでかこひふまのもかく手ふうづ

か五百両ぶ八百両いもしばよきこるかまて我身体でいさひのあと
我ふ銀のり低付ぶり掛屋浦いり舟ぶりりぶり山ぶり
田地ぶり其外いろく家督いまびぶ十代や廿代三十代延び
くしたりとも義ぶ可忠ぶふ手ひらぬこらぶぶこふふ
ひ乳をつふやし五歳をもんでわづらぬふり義病切
九ふ天弟保元丹でものこの
○義の日瓢子病急角鮫ちもこでいこそぬふ抵かし
してぶふも業ぶまふものぶや義ぶ医家ぶいこれ子也之



甲師
通

とまそとんぢとすてる病人でもあるひぐやらじ〳〵めんくてあぶ〳〵今
ぜ〳〵癒治こゝかくらんすひ○○實之四ちらたて夏の煙草を
嗜ひ〳〵ぎ夏ごのうちよりあつあて日義いろ〳〵と我をてろろ
するゆとを乳ゆり治ごつ代嗜ふものもゝふとぞふ隼実勅りし
てこゝ〳〵ゆ〳〵ぢる孫永〳〵びんろ人ゆり。我ハ十ふちゆりて〳〵菌
た所ゲラの孫永〳〵義皆ちも也ゆくを吹て見る時ハ我ハ天ゆる
果軒を拔てむを通ゆ〳〵ゆれハ雑義をろるゆ〳〵ゆ〳〵也ゆ上
金銀家智仰山ゆんハ国きゝ十ゆ事吹ゆて〳〵ゆ〳〵是ゆる雑義

国義ゆゆ先道理ゆて義ゆいもゆ〳〵ゆ〳〵ハ我ハゆやまりそハ
後義ゆ事ゆふとゆりてゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵

おそ是蠆虫の毒虫なるのみ富也ぬ身体ことごとくぶバつ毛と
九億万〻義牛より甚しく大きう大造う富八四海を治て
果報八天子と生れ出たる殷紂王でも我ひの人の所ゆ用ひぞ着りて
方をやうやうし秦の始皇ぞ高大なりし物し不仁に着りで二代でかか
ぞ乗家ハ滅亡りしも家盛ぞ思ひたごりう滅して高ま小家九
代の大象智も高時がおごり強迫で彼滅とるかる高大はうる
き大身体でも上国でもちよと二ひだのやまる時八忽ち命を失
ぬ也。家智ふ金銀家補山川舟や田地ふ多く已が
正根玉より何ぞ金銀家出ふ人や故り漁の高祖八光も
ゐし家実ゐれども我正根玉ふ家智を治てつひ上て下ぬ
家を治のふ源の右頼八一国の一所領も治ぬ流人ゐれど我正根玉
いふ元手を以て源の日本惣追捕使右大将ゐ成て場のふ今迄
ぬし金銀を和持ちりとも行ぬの正根玉より家智ふく
よひ元手ふ出き加ふ新参酒の意うを思て下り下りかりうぬる
かるき身と金銀ぬらくと世ふ流浪して金也堂門ふて伊勢
立でもするものでや○已之出脇無でしつて日沖すぬ悪口

ゲロ ようこそ十ろういろと。剣とくひものだり。封をとりまてば

○ 蕈のいもく或ところ人なもむ。小蕈虫を干どり。取て鍋乃

蒲團ほ上ふあぶて。傍に木ばそびて。蕈虫留く遠

恋し。未ろ合ろ。どうでも実ハ。ゆどゆき百性の。ほかの人。ゆこ。

きたるおきむ。ろ。ほ上ふ。禁をおきて。ろろ。ろそびて。ろ。ほ。蕈をとむ

かりと。雖義せしとかや。此味しれめくして。沙も則連中ろれば。我

いふ事ゲ。沙耳ふ。魚口と。後ぶち。又。椎耳ふ。沙ろ。ほ。ほ。ん

ゲ。魚ろふ。ほ。ろ。ほ。ん。言ハ。魚口と。沙ろ。ほ。ほ。れ。松ゲ。実ハ。の

の味ハ。の里。近ほ。の。ろ。ふ。ハ。ろ。ほ。ん。石。敬。金。者。ほ。ふ。て。金。甲。の。細。子。を

る。職人。ハ。ろ。ほ。ん。男。生。為。気。性。て。て。樂。ほ。ん。ゆ。く。ゆ。そ。生。れ。て

ゆ。ほ。も。義。食。極。真。勢。ゲ。日。夜。昼。ゲ。ゆ。ほ。ゲ。の。ふ。ゆ。ほ。ん。ゆ。ほ。ハ。

常。に。燈。ほ。ん。ほ。ん。ほ。ん

のそびつるまゝ。呑のかゝ故為人ありて弱冠を長乃
法級達入て二百両の金をのあらぬとて行末をもとゝ迷
失ひる其翌日遊義泰庵さて驚きかしひや金長ごろふ
言葉も合ぬよためし身のいのぶらゆ手りとゝ定命
人と恨もつるほと早々見物ふりて見ふ金長泰庵とて
常にうとゝぞ久く細工を怪出して何の苦もつきこのひつ
ふ泰庵しびつ百物く貴さるの人うふ寸法も遊び事なく
身のいのぶらを忘やまゝて年こかゝ重淄られ銀ヒサツリ

とうど入とゝれ出しも動ぜら其いのりうを京今不双の京傑
我ふ不ふば乱れもで〜〇金吉ご曰今三百両の銀とゝれうゝ
ふでゝ我ハ父世金ふ〜ゝらゝ元手泉留の孫りあれば弱
世ぞ今出ゝ三百両の銀をのふうと我三百両うゝ〜ゝ力が家
相續ふ長人ふれば労せる事ふのゝぞ〇泰庵いよゝ〜ゝおどろき
かくいゝゝいるる法で呼せる〇金吉が曰ゝれば其事ゝ我ハ
生まれ酒色遊其と費事ゝ大きゝひて傳ふ家儀弥と藏
ゝかせぐ事ゝ好ねゝふ根ふ元手と家留ゝわれば世元ふか

とくから三百両や四百両の金をつめてたすけるてはなるべし又主君
家ゝそ三百五百人より世ひのるふるもせよ元来酒色遊長ゞ
大好物ゝそ業体まてひとりふる振まで生れ付也世間振ゞ一代ゞん
きうするを承智元手元手元手元手を拵ゑ金銀家財きこそ云ふれど
財ゞ何ほどつゝても善悪共ゝ金銀家財きこそ云ふれど
今よりいを改めのことおさ有ると申人世間ゞ多ゝ
やゝ〳〵幼年〳〵ても見よ

冠運出世傳受上之巻終

開運出世傳受　下之巻

○義の曰物又生ゝ様ゞ弱る事ゝ有り沙ゞ門ゞ孝ゝ中で
一致大切ゞ為もつるゝ〳〵いつる人ゞ○已ゝ西善て曰今掃よ一
人の伯父生ゝ有り是ゝ我家の恩人也其ゝ忠義
ゝ中ゝ有ゝ我を陳ゝ子ゝ為ゝ人て是ゝ深切忠心也ゝ子ゝ也
○義の曰ゝ大切ゞ為ゞ者ゝ大事ゞ成ゝ忠義ゝ成ゞ
毒薬ゝ為ゝ者ゝ命を元ゝ為ゝ者ゝ沙ゞ定ゝ

さぐるべし○已こゑの声をきくして曰我が人ぞ是をきまふ
でん此武人よりのぐするものなりぶ命をすてゝ我をいかん
○義の曰予天眼通をもつて見るに此両人ぞなりもし此家8
成ゝつぶしがごとき所に此女人をおもふて後に自由自在に此家
をうばうべしとて此武人を称らふたまふ毒薬をぢくゝと
のまるものなり此実に知らざるや○已えぬちどうきそう
よりて曰此武人我家の柱をもむ家にもうで給さり
此武人をあらそうといふ人毒大悪人いうるものぞ

○羽の曰予其悪人をいとゝ此いうとをうせざる事なら
かるべきばかりでも義ゝ又さらに人なのまれ崇ゝ此太刀
てゝとゝ武人をうゝかうとするとなれのり予先是をもり必
さうん○已之此の曰扨ゝうくき者を此太刀する何者で
○義の曰武人をおろかに此太刀ぬすびを妻に此ぞ家乃
良のひすぬ次に義を子毒顔をかゆはび屋つらふ妻
お称里ぬふ者を色ぬゝと乱ども是ハ元来悪ひゝ
どおろかく強者人よくこそ迫なり○已こゑいうく

さてく悪きもつぢらかるとてもの事ゝ張本人なりの一
○義の曰今、何をかくもぢきこのたくさまにかくるべし今も両人
のこゝろぢおしうそも迷ひためふかる者ハ皆うしかひおろさうと
もする大西ゝ張本ゝ蓮野巳之助といふ奴ありゝやつ元来大西
人そて蓮野ゝ家をうばさうとて昼夜ゝ悪ゝ計をかまはぬく
まはうひ早く毒ぢして一日ゝりとも蓮野ゝ家をたゝんでもま
らんとまれど右の両人ゝりてよく家をもる所ゝ世家中く
減ぬ一まうとちもひて酒色ゝ逆真といふ薬ゝ一味をかしらる。

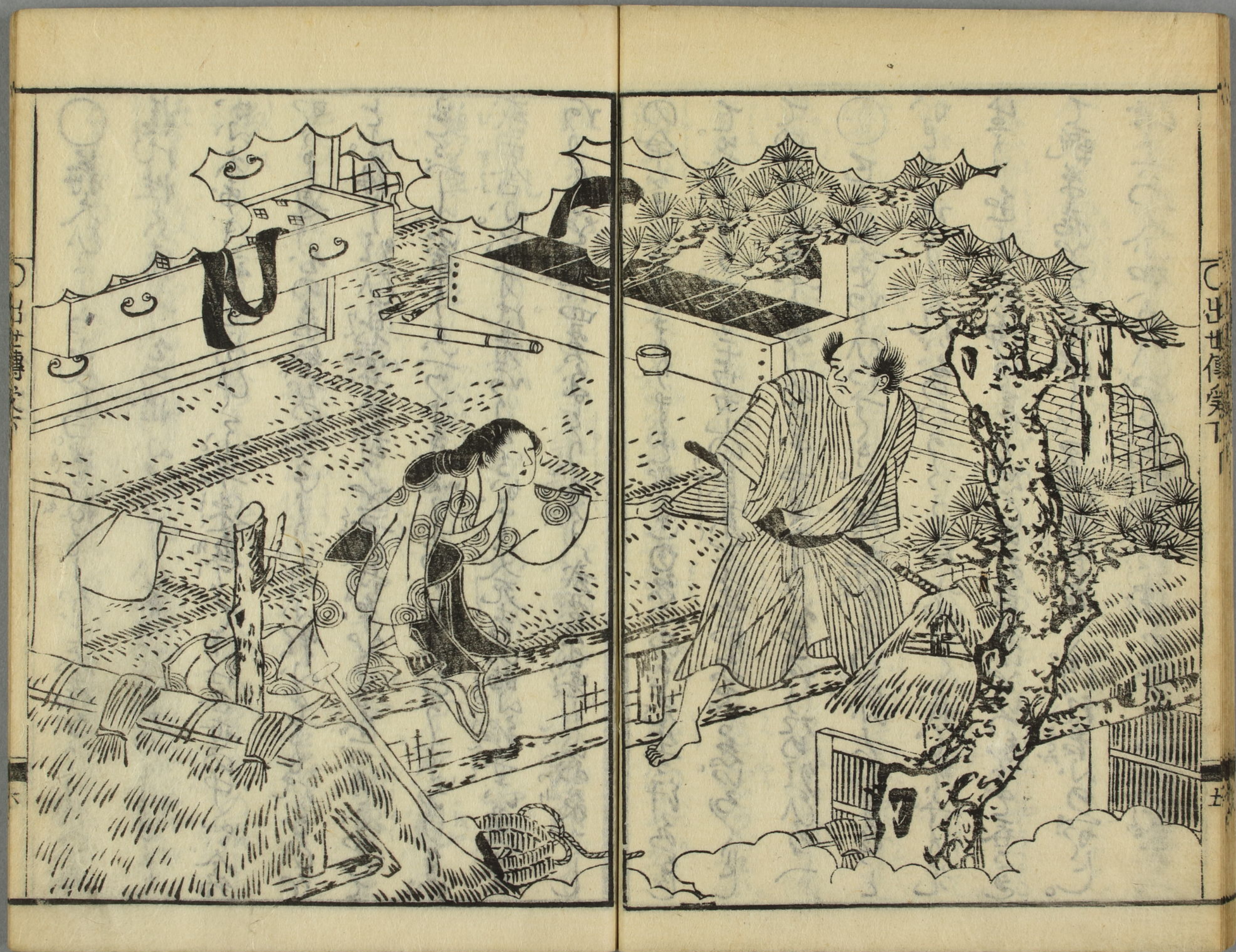
紅持放蕩瓢子病といふものをもて右両人をい痛させ気の毒
といふ毒薬をて命をちぢめおろしかまている事を迷ハもぢ
や孟子も杖と刃とおとる事ゝりやおとる事ぢしといふて
ゝりて刃でおろそも玉藻で首をあておろもそも又心痛ゝ労を
さして命をちぢめこぢかくもるもおろもふをそ、かとりゝ尽
ゝかぢきかる世代中ゝ息子代ゝ世通りしそ已ゝ酒色ゝ
逆真ゝ先祖の碑ゝ骨の家をとろぢし主親を始
とし已ゝためよるものふゝゝ気ゝ毒扱ゝ気のどくやといふ。

毒殺をいたして、労苦痛させて、命をとる、盗賊よりも、罪大也。
むし、或、大信先生、人をいざなひて、始て、主居を見て、行ひ、
喝り、道ふかくして、曰、今日の役者中、我、白色男、ふるし、敬
役、ごくも、出来たりと、ちゑとやされる、ぶ、合点、白かぢ、色男
ふるし、かくて、役とは、いふ、ものと、謝れば、○大信先生、曰、右く
日、人なるぞや、絶男、ごの放逸、よりして、家国、乱れ、忠臣、
切腹、さし、夫、婦、自害、さし、領地、没、ふるして、流浪困窮、也。
今日、主居の、大きなる、どう、悪人、より、おこりし、とぶされる、ぞ

ふるふ、とき、汝、色男、形、同ド、仕、ぶ、ふ、汝、
先、祖、ごく、ごく、子孫、やうぶ、恐、ふる、伯父、命、とり、
忠臣、忠、ふ、ぶ、掛、ひ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、比干、ふ、セ、紂
王、も、ふ、ふ、ふ、ぬ、汝、孔、家、ぶ、ふ、ぶ、大切、武、ふ、ふ、大
悪人、張本、道、野、已、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ

武人りつぐ王る若ければ命をすてゝもきこうぐといふれば。
今ゝ敬服白ふ知まれるゝ六ゆゑ義人たしゝ是でと
雖ども不道理ゝ不仁理なれば決ず命惜ゝ忠信とやうす。
おろかゝ。ゆゑ若昭白ゝ死ば今より決て我学僕となして。
道や聖人の味知ゝもでし○已之ゆ赤面吐息感心して
曰。孫ふ我ハ悪人なれば生て世界をふさぐよりハ海の藻
自殺もでし○忠右衛門ちどろき何て曰ちゝ有ゝなれふ。
酒色ゝすぎばどうふる家も大事ゝ起うと。私と姫ゝ
ゝ

の命ゝ日くちぐまります也拾ゝ白ふ先生ゝ汗ゝ
て。先祈うゝカ子モウカルの良薬をまもとかふ忠いろ
てのすゝのふと知りのゝもでや是より ひとゝうゝ
○已之ゆ手ゝゝひ口すぐ。三拝九礼して曰ふれゝ身ゝと
かゝとき。水りゝればなのづゝうゝうゝふとく我ゝ
生りをゝう口御ゝゝもと思ひのゝ良薬をゝ知ゝぐ呑さ
て甑茅庵ゝなゝ治ゝ九里。恵ゝ教ゆゝ。御礼言ふのゝがし。
ゆゝ六ゝ人ふ加ゝのひ冥運ゝ世家ゝ相續子孫ゝ人の傳受ゝ



○藤大ひようろうこんで曰。生れもつかぬと大病おうらう閉挨屠
陸は性とは遠く。その働かぬまぐこひ和ぐのるとたのこぶまとし
かふ大おぎき剃を用ひ。早速意ぐて仕合。世の中ふハ今翁
かぐや通りたの家繁びの元ようりかふ軒へもるもはふひか
どふ。藤り狂ひ見軍の武ツと工夫我本ひ。も色づきふつて
見るべし。寄り主一つよき嘯いつ。今ハむうふりるが。
武田舎ふ。兄弟ハ者ハのりるが。主父死去の時ふ銀子ふ貴多
ハのりるを。兄ハ四男多とり。弟ハ武男多を。ふ家さし

ぬる兄ハ元来生まつき柔弱ふて人ぶ意ふ。ぶと銀をかして
とられもあろう。又我もうがくとのそびふぐ。ふ。酒呑で
無益ふ日を過し。家業ふ怠り。ハ不仕合とり親より
うあ。もも田地も屋敷も困窮ふ至り。又弟ハ剛悪の生
まつき放。うあぐと奸曲非道の事をかして金銀をもうけ。
働まくくとしるふ。ふ兄ハ。年貢ふ銀り
はまうふ。こまます。弟ハ方ふ行て金子三両ハ意をいろく
とまをつきく。我より多ハ至る迄ためども。弟ハ聞ハ

のこるまで悪口しくまとどもぴらりかもんぐ牧おり入りて者ぐ者
ふらふりしと者ぐんぐ者ぐ女房ぐ者ぐきふへ後とたてくゆらふ拙く
拙もるきふへうる親のもづりふ色ふへとうて今たらぬとて者ぐと
者むとふおつ者ぐる者ふ我ぐひぐる懸恋とふて銀ぐかしゆきぐ
ぐとふまとと合力をでしと銀百文をりつけしかれぐ来習
ふつくのつてらるふ世兄いうるふの言ふくすぐふ我家へ
ふ事戻り巻ふも編指ふぐしふ編ふとさつにうて死せ
ぐるふ兄の如ぐうたひふちどろ者ふ彩色ふて何ふふのふと

一代のちからとおして拵苗ふる○見ふぐこをぐうてゆハ
ふも知ふ通り世交銀ふつまりふ仕ぐ者ぐ者ぐ夫婦ぐ邪見ふ知り
ふぐふ彼ぐ者ふ至り今翁より今迄者とふどふ嫁入ぐのこふ
ぐこふ者ぐと悪口しと其上者ぐ者ぐ女房ぐ百文の銀とおげうつて
ふく銀ふきぐとふ世兄念やこぐうくすぐふけ者きて
者ふてぐ夫婦とふふ我ふ死すぐ一変とて可一和金
ととげさもぐ○書ちどろきふぐふ心とふづあ一くけ色
にさもふふ也ぐうぐふ始ひて世そへぐふ色心とおあて世ふ。

主ぐ命を捨のらぐ我も命をとるものをでーぬーぐ貴とおろし
たまうぐ我ハ又貴嫁をまろしーまゆーて幸をとぐ恵し。
今ゆてい利ゆ漁あいをでーるでーらよまもむとくてひぬ
数女ぐうやれるいとぐぐるいとそ。まも我も命をとするぐ是ぬ
ぬ。これまで。紀を見ぐ去ある。費消して今取捨の田地ぐ。ぬげて。
今ノ日ぐ命をとるぐ。幸ぐ。生れ名ぐ。いとまびひ。
思ーとイ。武人ともの田地ぐ至り。是ぐの礼をし又武人ぐ今貴
ぬらず命をとする決をかうり。いとまびひーて。ぬーくるぬ。フト

如度帝もーくーくーく。夫り申ぐる。今ハ今迄ハ田地ぐ大恐と思しぐ。
今心ぐつきて見まぐ。ハ田地あそ武人ぐ為の大ぬぐ歌。是ハ
武人ぐ命をとする。帝ぐまゆ邪見ぐり事配ぐり是又元
ハハ貴ぐかぬ。ぬつぬりし。意心ぐう。ハ又意心の元ぐ貴ぬ。ぬまりし
ぬ。年貴ぬつ。ぬ里元。ハ田地ぬぐ。ぬ出来ぬ。不作ぐ。ぬ
おとぬれ。ぬ隠ーくーく元をぐ。ぬまゆ。ぬ歌の技ぬ。ぬて悪
ひ根帝ハ歌ぬの田地ぬれ。ぬ技ぬ。ぬの事ぬ。ぬ。ぬまぬ。根
帝ハ大歌の田地を責ぐひぬ。ぬ。ぬ申ぬ。ぬ。ぬむ。

同心一碧未明より夫婦鍬くるとそかこげ行て西の方田地
めえ八ちの方ゑ不作うゝおこ里て武人ゞ命をすつると孩さを
てゝりかゝ〜つまかゝし物つぎよゝ代田地をすま婦の子
よゝぞゝ〜晋の隙裏ゞ衣とさきしかくて此田地のふくとすの
どん孩ゝゝゝぞらちゐて折れくきゝ里かゝし又寒ゞ身の嵯ゞ
おくきゝふご尻じやこ子やクナヤの扶子ばらじやと思て。
りかゝ〜折かゝ〜孩ちまのぎこふ日夜孫食をいもれて。
きまゞゝと田地とゝぶ里ちとゝいれ〜かゝ。四十日のすゝふ。

次第の田地のすがゝるゝ○女房夫婦むゝひて曰ゝ
武人ゝ孩ちまゝふ情ゝて精せ〜かゝ〜田地ゝよゝるゝた
ゝ〜今年八ゝ〜でも上作ゝ〜ゝ実とゝ〜武人の勢の
根本田地とゝひ〜ゝ田地八此ゝのよゝ油断ゝ情せば是
此ゝふよゝゝれば全く田地ゝ事でゝ〜田地八無ゝる成り。
此ゝの情ゝ情ゝよゝくゝゝゝくゝゝゝものとそれとゝゝぞゝ
うかゝくゝとゝ職ゝ情ゝ様でゝるゝゝゝ母のそゝ子ゝ孫
ゝゝゝ見とゝ世ゝ人ゝゝゝ私ゝそゝゝゝ

こゝの家もあゞ敬こそ。すゝ子麻も。稗も田畑も。敬でハこざうま
せの。実のなまるいの敬といふ。つよく見えとゝいこさ。私ハ敬ハ
敬ゐれバ。いとまゞこそれ。せしゃれるゝ〇夫もつゝゝ
考へ。ゐるゝと。武人ゞ命をすてゝ。ゝたゝ。ゝ麻ゞ稗見ゝ
且又孝ハ巳ゞ張よ法ゝ。ゝ。ゝ又元ハ農角田地ゞ耕作ゝ。其
又元ハ巳ゞ野良ゝ。農作ゝ。ゝ。ゝ。其ゝ。ゝ。ゝ。
ゞ巳ゞ見ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

夜むたきも色ごとふるひ熱よ弱夜をさしておく色きやと。
まのあり無理よおるて身をもたてたきて夜の早く休をたきも色ご
とふるひ熱をむまくと休をぞきやと夜を嫌して夜仕
事をいてしひもの喰ひきも色ごとふる色ひ熱よ業
食をきん食きやといを無食しを化すをとしるきも色
ごとふるひ熱ふいろひあんごもひきをとて無沼し。
拘見遊事のおもしろきも色ごふるふるひ熱よ遊真さをぞき
やとて我身でわる身を熱をして日夜おをとて無食無後

まをせしも拘びたふへるくぶかせぎそれがかせぐよおひつく貪
ごとふるく年をかをてせわをてふぶものふき長者と
栄くをしる彼事夫婦ふかの雲の泥もうけをる
加今ハおとろふおんきをし今日の悔をたてるひるをを。
兄の書侍吟て夫りやるふけのらまバ身ふ追く貪
きを雑俵の拵ふれバ金子弐百両じかり。法恵て生ふる
べをとやれど夫不兼知ふるふ○女房の日身ふり志遊
てあつあるを元をとをふひのひたをばあを今かる家生ふ

仏忍根機
箱千両
箱千両
箱千両
箱千両
箱千両
箱千両

とりのあのからずゝ。ぬれば泄交をもひかゝ。銀をわぐこの
たゝりゝ。○まの日そ。何とやゝそ。男女海の果ぐ
わづかの金ゝとき。ぐ惠に。其上銀をなげうて。我ひとひ
ゝ今よきづかと泄通り。ぬるゝあつまる元をもとひ。ハ
たゝむとゝもとゝふゝと不眞の作ゝる。○まの日それぐ俗
うゝ也先達の意ゝ。ゝ時すゝ。ぬく銀をかゝ。ぬぐすづう
ゝ。ゝと。ゝのゝれて。ゝかゝと日をゝ。今ゝゝいる
雜俳ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

ろおびすぐ〳〵すぐれて道理をつくかうして金子二百
両あつめてまゐり、いつそれば○すまの海大ひよ和入れ
夫婦の善ひよ化せしめをひをいつためとろかちがく乞
今は大金をもひろひて又は金をひろひる所より生れつきの大欲心
道をもく天理のもとめきは上いろの難ゐべきもおれば
きづく金子は拾ひてぬすびとを不和の中をつぎ〳〵祈きて
拾てまゐりのひ中悪性の有難をすぐ〳〵我元をしてれ
つ〳〵忘れ路をもぎりべし。祈りのとび返る恵りの心なる

ゐ里我くも兄弟元吉例よりの八国弱を元をして母ぐ通
〳〵とてもすまの海善ひよりつり屋敷おろそ屋出よりかもざ
ゐ屋自をかうして所〳〵兄よりつぎし身体と富栄て兄
すむつまずく子孫出入りしかや世間〳〵実よりつたるあ
よいつぐも見右くも夜の中ひろうちをもしたるものこと我人乃
夜の中ハ親の恵づ重おもようけがうかくしのそび善
〳〵てまんきうの乗り又一般の恵よりまゐわをれ人おもあし
我も死のもの徳通徳恵の兄とりふやもりう又弟をもうける

事ふ非道なる〇ぞ人よりまさけなき神見る事を海
ふ〇ぞもあり世よりあく心を夜の中に前拵へて居まさども元
来性善なるとバ一念悪心ある時ハそれ有やうしまぐれと留る
事心ふ見嫁かり世事心の見嫁のいさあをまてゝすかゝてお
あにわるこひもこいとひとなる家とかり不和なる中むつ
まじくなるゝんどかゝきかゝねよかてゝ勉る世の人事
むこふかりがとき見嫁を後の中に入まとゞゝけかゝいうあと
きるぞゝて見ぬごくゝふのまびとし難家よいうりまのが

とくまて非乃とかゝてさうんきうする所ゝ産賢神併のかゝ
ゝ世て道ハちでくもたるもとらまゝるゝ今ハゝ見ぶかろ
ろるもまき女房の体をもきもちひたかゝ家をかゝ手夫婦ぶ
邪見ろるも若よ化ゝ心をのうれむきバたちまち家をかゝ
ふるり生ろ孫も見をふくゝうゝひ金銀財ぶ元手表暦
長久でもかゝ家益海舟川山田地菊畑ぶ家とく元手でいふ
主の元手主の表とくハ家のもりたの根を色性質ハ世る孫れ
續長久ハまき人よをとり悪友ハゝゝぞ人の新をとく用る事

世和漢ともに人びいでゝ家国をうごかすほどの
ゝぶ諸よき人のいさめを用ひもちゆるの色張りのうふ知恵
ぶかろふぶ勢ひぶかろふぶ力ぶかろふぶ学文ぶのらふぶし
かる義国ぶよからふぶ命でもかでもよき人のいさめを用ひ称ず
運をとゝのゝきこゝろ世の中小の善人の言をとちひきか
ぬやどの毒薬ゐきれよ力子ナフナルの素味のうちでい光ぶ
ちもの役者と見るゝ時ゝ母のよう多嘉家ふよりもゝ
角つらひふひるものだろうふて力子ナフナルの毒薬のこを呑
したぶり力子モウカルの良薬ハすくむる者ぶかひものゝやれ
のちとても油断めさること瓢弟痛ぶ再発するゝ病の根切
ぶゝくゝくば先刑もつすやしく見冥覺智の二文めさん
○両人恐縮稽首百拜

○元亨出世傳受下の巻終

脇坂義堂愚忠述

賣卜先生伝受　公家世の人名算利ゝく色ゝく又八分体不如意ふんきう
雖況ゝ乞ゝ　ゝめ又ハ分ゝ　絶れかんしやく
絵ゝ示ゝ　ゝ心労ゝ
大ゝ　ゝ世ゝ　ゝ伝受ゝ　ゝ

夢入彩板　三冊

右の安示伝受ゝよりこのひてのゝ小伝受彩板の

安示伝受ゝ　安樂ゝ

二冊　白孫もうかるゝ伝受　傳受　二冊　三冊

武示の本ゝこのふ本ゝ　武士ゝ世の人の貧窮
雑伝ゝ　ゝ伝の孫ゝ　ゝ色欲利ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
道ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
見ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
○右の本ゝ見ゝ　ゝ
郷代の思澤　五冊　氏の繁栄　五冊　今ばり　武冊　ち　座の小槌　武冊　夜話茶治　冊
ゝつめぐ　冊　同二冊　同三冊　同四冊　同五冊　同六冊　同七冊　俱ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ